

小児科医のリーダーシップ ～日本と世界の子どものために～



平成29年度研究助成金・
海外留学フェローシップ等募集要項
海外留学体験記

（詳細2～3面）

平成28年度市民公開講座
気になる子どもの支援

— 発達特性・発達障害の理解と支援 —

（報告書）

◆ 特別寄稿

「国際小児科学会理事に就任して」

去る8月19日にバンクーバーでの国際小児科学会においてStanding Committee (SC:理事相当)に選出されました。皆様にお礼を申し上げるとともに、日本の小児科の真の国際化へのご協力をお願いいたします。

選挙では世界各国の代表者らが地域別の候補者に投票し19名のSCが選出されました。アジア太平洋地区は定員3名に対し9名の立候補者でしたが、幸いトップで当選することができました。応援いただいた皆様、また現地でご支援して頂いた、日本小児科学会高橋孝雄会長、五十嵐隆前会長、衛藤義勝元会長、江原伯陽理事に篤くお礼申し上げます。

1965年に高津忠夫教授が国際小児科学会を開催されて以来、小林登教授が会長やSCを、その後も松尾宣武教授、衛藤義勝教授がSCをお務めになるなど、日本は国際小児科学会に長年貢献してきました。しかし最近その機運が低下していることは否めません。今回の当選は大変嬉しくもありますが、日本の先達が果たしてきた功績と今後の世代が担うべき役割を思う時、その重責を痛感します。

今、国際小児科学会では戦争、貧困、自然環境変化など子どもたちをとりまく地球規模の問題が議論されています。日本の小児科医もこういった問題に目を向け、行動を起こす必要があります。それが本当の国際化と信じています。まずは日本の皆様に国際小児科学会に参加して頂くことからお願いしていきたいと思います。国際小児科学会に対しては、アジア地域での文化に根ざした小児科への理解。この地域での若手の育成、交流、共同研究を推し進められるよう働きかけていきたいと思っています。ご協力をよろしくお願いします。



福岡大学医学部
小児科主任教授
廣瀬 伸一

研究助成金【小児科領域全般】

募集要項

- 1) 研究助成金：1件 200万円以内
- 2) 助成対象研究課題：
 - ① 新しい感染症や急性疾患の診断・治療に関する研究
 - ② 小児の難治疾患、慢性疾患の本態解明と治療に関する研究
 - ③ 生活習慣病の予防に関する研究
 - ④ 遺伝子治療など高度先進的医療の開発のための基礎的研究
 - ⑤ いじめ、虐待、拒食、不登校など子どもの心のケアや心身症に関する研究
 - ⑥ 生命倫理など社会的問題に関する研究
 - ⑦ 国際医療協力の基盤となる母子保健に関する研究
 - ⑧ その他、子どもの健康に関する研究
- 3) 助成対象者：

過去3年間に於いて当財団の研究助成金を受けていない者で、次に該当する者とする。

小児科の基礎的研究、臨床研究等に従事し、日本国籍を有する医師・研究者で、平成28年12月31日時点で50歳未満の者とし、若手の小児科医師及び小児医学研究者を優先することから、原則として教授及び研究機関等の部長級以上の者を除く。

応募方法

当財団の定める交付申請書(当財団URLよりダウンロード)に必要事項を記入し、下記宛に送付。

締切:平成28年12月5日(月)必着

交付申請書・応募用紙の送付先及び照会先

公益財団法人 小児医学研究振興財団 事務局

〒110-0015 東京都台東区東上野3-32-2 廣瀬ビル4B

Tel:03-5818-2601 Fax:03-5818-2602

E-mail:shouni-iken@jfpedres.or.jp http://www.jfpedres.or.jp

優秀論文アワード

選考要項

アワードの概要

- ① 下記機関誌に掲載された、優れた研究論文を表彰する。
- ② 選考は各機関誌を発行する学会から優秀論文として推薦を受け、当財団の選考委員会が選考を行い、1件30万円、総計4件120万円を筆頭筆者へ授与する。
- ③ 平成28年12月31日時点で原則として、満40歳未満の執筆者を対象とする。

選考対象誌(平成28年1月~12月発行)

- ① 日本小児科学会機関誌
「日本小児科学会雑誌」、「Pediatrics International」から各1編
- ②-1) 日本小児神経学会機関誌
「脳と発達」または「Brain&Development」から1編
- ②-2) 日本小児精神神経学会機関誌「小児の精神と神経」または日本小児心身医学会機関誌「子どもの心とからだ」から1編
※ ②-1)、②-2)の優秀論文はイーライリリーアワードとして表彰する。

選考結果発表

平成29年3月上旬に当財団ホームページ上で発表のうえ、平成29年第120回日本小児科学会学術集会会期中に表彰する。

ジャパンワクチン研究助成金 【感染症及び感染症予防ワクチン】

募集要項

- 1) 助成金額：1件 200万円以内
- 2) 助成対象研究課題：
 - ① 感染症の疫学と診断に関する研究
 - ② 感染症予防ワクチンの開発に関する研究
 - ③ 感染症予防ワクチンの有効性・安全性に関する研究
 - ④ 感染症予防ワクチンの国際的ネットワークに関する研究
- 3) 助成対象者：

過去3年間に当財団の研究助成金を受けていない者で、次の条件を満たしている、日本国籍を有する小児科医師及びワクチンに関する研究者。

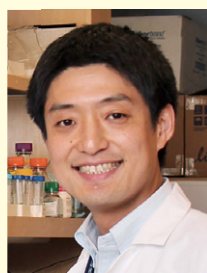
 - ・ 平成28年12月31日時点で50歳未満の者とし、若手の小児科医師及び研究者を優先することから、原則として教授及び研究機関等の部長職以上の者を除く。
 - ・ 同一研究に対して過去に他から研究助成金を受けていないこと。

応募方法

当財団の定める交付申請書(当財団URLよりダウンロード)に必要事項を記入し、下記宛に送付。

締切:平成28年12月5日(月)必着

ボストン小児病院 留学報告



中山 東城

私は平成25年度海外留学フェロウシップのご援助の下、米国マサチューセッツ州ボストンにあるボストン小児病院に留学させていただいております。ボストン小児病院はボストン・レッドソックスの本拠地であるフェンウェイパークから歩いて10分くらいのところにある北米最大級の小児病院ですが、臨床だけではなく研究施設としての側面を持っています。私は、遺伝ゲ

ノム部門の持田先生の研究室に所属し、発達障害を伴う小頭症をテーマとして研究を行っております。小頭症は、神経細胞が減少する病態を基盤とし、近親家系の発症が多いことなどから常染色体劣性遺伝が占める割合が大きいと考えられている疾患で、その大多数に発達障害を認めます。私は、自身の専門である小児神経領域で遺伝学的な病態解明に深く携わりたいと思い、遺伝的要因が強く想定されている小児神経疾患を留学のテーマに選ぶことにしました。

留学先では、中東諸国から近親婚家系を含む300を超える小頭症家系が収集されていることから、主にエクソーム解析を用いて小頭症の原因となる新しい遺伝子を網羅的に検索しています。私たちは複数の小頭症家系で認められたPYCR2というプロリン合成に関わ

イーライリリー海外留学フェローシップ 【発達障害に関する研究】

募集要項

- 1) 海外留学奨学金：2件 180万円／総額 360万円
- 2) 対象研究：
発達障害に関する基礎的及び臨床的研究
(発達障害の定義：精神遅滞、学習障害、運動能力障害、コミュニケーション障害、広汎性発達障害、注意欠陥/多動性障害など)
- 3) 応募資格：
原則として受賞後1年以内に出国し、海外の研究機関等において、一定期間(原則6カ月以内)研究や研修に従事できるもので、次の条件を満たしている者とする。
 - ① 日本国籍を有するわが国の大学、医療機関、研究機関に所属する小児科医師および小児医療研究者。
 - ② 具体的な研究または研修計画を提示できること。
 - ③ 研究終了後6カ月以内に研究報告書の提出ができること。
 - ④ 平成28年12月31日時点で40歳未満の者。※応募は1施設から1名とする。【所属長(大学の場合は学部長)推薦】
※過去の受賞者の申請は不可。

応募方法

当財団の定める交付申請書(当財団URLよりダウンロード)に必要な事項を記入し、下記宛に送付。

締切：平成28年12月5日(月)必着

ジャパンワクチン海外留学フェローシップ 【感染症及び感染症予防ワクチンに関する研究】

募集要項

- 1) 海外留学奨学金：1件 350万円以内
- 2) 対象研究：
 - ① 感染症の疫学と診断に関する研究
 - ② 感染症予防ワクチンの開発に関する研究
 - ③ 感染症予防ワクチンの有効性・安全性に関する研究
 - ④ 感染症予防ワクチンの国際的ネットワークに関する研究
- 3) 応募資格：
原則として受賞後1年以内に出国し、海外の研究機関等において一定期間(原則1年以内)研究に従事できる者で、次の条件を満たしている者とする。
 - ① 日本国籍を有する小児科医師及びワクチンに関する研究者。
 - ② 具体的な研究又は研修計画を提示できること。
 - ③ 同一研究に対して過去に他から海外留学奨学金を受けていないこと。
 - ④ 研究終了後6カ月以内に研究報告書の提出ができること。
 - ⑤ 平成28年12月31日時点で40歳未満の者。※応募には所属長(大学の場合は学部長)の推薦書を添付のこと。
※過去の受賞者の申請は不可。

応募方法

当財団の定める交付申請書(当財団URLよりダウンロード)に必要な事項を記入し、下記宛に送付。

締切：平成28年12月5日(月)必着



る遺伝子に注目し、小頭症候補遺伝子の機能解析を行いました。一連の解析により、PYCR2遺伝子変異ではコードするPYCR2タンパク発現が不安定になること、ゼブラフィッシュにおいてPYCR2発現を抑制することで、ヒト同様にゼブラフィッシュで脳容積の減少が生じることがわかりました (Nakayama et al., AJHG, 2015)*。今後も研究を継続し、発達障害の病態解明に少しでも貢献できるよう努めてまいりたいと存じます。

研究室のポジションを獲得することが決して楽ではない現在、海外、特に欧米の研究室に留学を志す私たちのような日本の臨床研究者にとって、このような留学助成の支援は留学の敷居を超えるために今や必要不可欠なものではないかと思えます。今回、このような貴重な留学をご支援いただいた小児医学研究振興財団にこの場をお借りして厚く御礼を申し上げます。



*Nakayama et al., Mutations in PYCR2, Encoding Pyrroline-5-Carboxylate Reductase 2, Cause Microcephaly and Hypomyelination, The American Journal of Human Genetics (2015),

<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/25865492>

賛助会員募集のお願い

本財団は、小児科学会創立百周年記念事業として、若き小児科医の研究活動を支援するために、平成20年4月に設立されました。平成23年4月には、公益財団法人として移行認定されています。

しかし、“小児科医を育て、健康な子どもを育む”という本財団の趣旨は、必ずしも、社会の理解を得ているとはいえません。社会は、本財団が小児科医のための財団であると、その意義を狭く理解していると思われます。本財団が子どものための財団であると認識されるよう、今後皆さま方の一層のご尽力をお願い申し上げます。

本財団設立にあたって、小児科医の自助努力が強調されました。基本財産の骨格は、日本小児科学会および学会員の拠金により、形成され、本財団がスタートいたしました。しかし、本財団の構想が第100回日本小児科学会において提案されて以来、すでに20年の歳月が流れ、また、本財団設立を主導された鴨下重彦教授が逝去され、当時の状況を知り、本財団に主体的に関わる学会員が少なくなったことを実感いたします。

現在、本財団は、基本財産3億円、事務局の不斷の努力により、年間900万円の基本財産運用益をあげ、研究助成を行っています。しかし、不安定な経済情勢の下、将来同等の基本財産運用益をあげ、研究助成を柱とする本財団の活動を維持することは、容易ではありません。

学会代議員各位、学会の中核会員各位には、この機会に本財団賛助会員に応募いただき、若き小児科医の研究活動をご支援いただくよう改めてお願い申し上げます。

常務理事 松尾 宣武

御 礼

賛助会員及び多くの協賛企業・寄付者の皆様のご支援により、今年度も市民公開講座を開催し、
無事に終了することができました。
今後も小児の医療・保健・福祉の向上に努めて参ります。皆様のご支援に心より御礼申し上げます。

賛助会員(個人)

※敬称略 五十音順

赤司 俊二	衛藤 義勝	金子堅一郎	酒井 規夫	田中 篤	原 寿郎	三池 輝久	吉岡 和之	脇口 宏
安次嶺 馨	遠藤 文夫	金原 洋治	坂田 和信	田中 英高	原 正守	水谷 修紀	吉岡三恵子	和田 和子
東 寛	小穴 慎二	加納 芳郎	佐久間弘子	玉井 浩	春田 恒和	南沢 享	吉田 康子	渡邊 信雄
熱田 裕	老田 礼子	鴨下 和子	佐々木 望	田村 喜久子	日暮 眞	宮島 祐	吉田ゆかり	渡辺 博
雨宮 伸	尾内 一信	河 敬世	四方あかね	田村 正徳	平尾 敬男	宮代 英吉	芳野 信	渡部 礼二
鮎沢 衛	大賀 正一	河西 紀昭	重松 陽介	千田 勝一	平松公三郎	麦島 秀雄		
新垣 義夫	大川 洋二	神崎 晋	柴田瑠美子	長 和彦	廣瀬 伸一	村瀬 雄二		
荒川 浩一	大澤真木子	貴田岡節子	嶋田 泉司	長 秀男	廣津 卓夫	村田 要一		
有賀 正	太田 節雄	北中 幸子	志水 哲也	塚田 明子	福重淳一郎	元山 福祥		
有阪 治	太田 孝男	北本 育子	清水 俊明	辻 美代子	深澤 隆治	森 哲夫		
飯塚 幹夫	太田 秀臣	木野 稔	下条 直樹	土屋 與之	福永 慶隆	森内 浩幸		
五十嵐 隆	大塚 晨	木村 宏	下村 国寿	堤 裕幸	藤井 達哉	森尾 友宏		
池本 博行	大西 正純	楠田 聡	白井 真美	鶴澤 正仁	藤枝 幹也	森川 昭廣		
石井 正浩	大野 耕策	楠原 浩一	白石裕比湖	寺井 勝	藤岡 雅司	森口 直彦		
位田 忍	岡田 純一	工藤 充哉	白川 嘉継	寺門 道之	藤木 伴男	森下 秀子		
井田 博幸	岡田 満	工藤 協志	末延 聡一	寺田 春郎	藤田 弘子	守田 利貞		
井田 孔明	岡部 一郎	久保 政勝	杉本 徹	寺本 貴英	藤野 滋	森田 友明		
板橋家頭夫	岡本 博文	倉辻 忠俊	杉本 久和	戸苅 創	二村 真秀	森脇 浩一		
市田 路子	小川 俊一	小池 健一	鈴木 敏雄	富沢 修一	船戸 正久	師井 敏裕		
逸見 睦心	沖 潤一	小池 茂之	鈴木 康之	永井 崇雄	船曳 哲典	八木 信一		
伊藤 悦朗	小口 学	小泉 晶一	鈴木英太郎	永尾 尚子	舟本 仁一	安田 寛二		
伊藤 末志	奥山眞紀子	小泉ひろみ	須磨崎 亮	永島 哲郎	平家 俊男	柳川 幸重		
伊藤 進	小栗 絢子	河野 幸治	清野 佳紀	中畑 龍俊	別所 文雄	柳澤 正義		
伊藤 辰夫	小田 慈	河野 陽一	関 秀俊	中原 智子	保坂シゲリ	藪内 弘		
伊藤 保彦	小田切美知子	香美 祥二	瀬島 齊	成田 雅美	保科 弘毅	山内 穰滋		
伊藤 雄平	小館 三郎	神山 潤	千阪 治夫	新津 直樹	細井 創	山川 毅		
稲垣 由子	小堂 欣彌	幸山 洋子	高島 俊夫	西澤嘉四郎	堀川 玲子	山形 崇倫		
稲葉 博士	小野 厚	興梠 ひで	高橋 協	西間 三馨	前川 喜平	山口 清次		
猪股 弘明	緒林 誠	兄玉 浩子	高橋 孝雄	新田 康郎	前多 治雄	山下 薫		
今井 秀人	賀川 治美	後藤 彰子	高橋 勉	布井 博幸	前田 美穂	山城雄一郎		
岩田 敏	加治 正行	後藤 敦子	滝田 順子	橋本 和廣	正木 拓朗	山田 恭聖		
岩田 力	勝部 康弘	後藤 雄一	宅見 徹	長谷川奉延	松井 陽	山野 恒一		
岩元 二郎	勝又 正孝	小林 繁一	竹内 義博	羽田野爲夫	松尾 宣武	山本 圭子		
内田 正志	加藤 達夫	小林 正夫	竹重 博子	服部 元史	松尾 雅文	山本 威久		
内田 祐子	賀藤 均	駒田 美弘	武知 哲久	花田 良二	松平 隆光	山脇 英範		
畝井 和彦	加藤 誠	小山 典久	竹広 茂子	馬場 常嘉	松永 伸二	横田俊一郎		
宇理須厚雄	加藤 正彦	小山 佳紀	竹村 司	濱本 邦洋	松林 正	横田 俊平		
江口 尚彦	加藤 陽子	斎藤 博久	田島 剛	早川依里子	丸山 剛志	横谷 進		
衛藤 隆	金子 一成	嵯峨 六雄	田代 雅彦	早坂 清	丸山 博	横山 義正		

賛助会員(法人)

※敬称略 五十音順

アサヒグループ食品株式会社
エーザイ株式会社
MSD株式会社
杏林製薬株式会社
Story of the tortoise株式会社
第一三共株式会社
田辺三菱製薬株式会社
帝人ファーマ株式会社
株式会社ナチュラルサイエンス
Meiji Seika ファルマ株式会社
医療社団法人 メディカル・プロ

協賛企業

※敬称略 五十音順

アステラス製薬株式会社
MSD株式会社
JCRファーマ株式会社
ジャパンワクチン株式会社
武田薬品工業株式会社
中外製薬株式会社
大日本住友製薬株式会社
富山化学工業株式会社
日本イーライリリー株式会社
日本マクドナルド株式会社
ノボルディスクファーマ株式会社
マルホ株式会社
Meiji Seika ファルマ株式会社

「子どもたちの世紀」について

News Letter題字の「子どもたちの世紀」は、日本小児科学会が創立百周年を迎えた当時の厚生大臣であられた小泉純一郎先生に揮毫をお願いしてご快諾頂き、総理大臣ご在任中にお書きいただいたものです。

事務局



公益財団法人 小児医学研究振興財団
JAPAN FOUNDATION FOR PEDIATRIC RESEARCH

〒110-0015 東京都台東区東上野3-32-2 廣瀬ビル4B

TEL (03) 5818-2601 / FAX (03) 5818-2602

e-mail: shouni-iken@jfpedres.or.jp

<http://www.jfpedres.or.jp/>

当財団の事業は、
賛助会費及び寄付金で実施しています

賛助会費は、所得税控除または税額控除を受けられます

個人 1口/年 10,000円

法人 1口/年100,000円

ご入会・会員のご所属先変更などのご連絡は、左記で承っております。